

2019年7月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営[®]」コラム第75回

<創業の精神>

創業社長の共通点として、創業の志に向けた情熱が非常に大きく、この熱意が行動力に結びつき、多くのアイデアを生みながら市場を起こしていきます。この創業の精神が二代目以降の社長にも引き継がれることにより、さらにグローバル企業にまで発展している事例は海外も含め多く存在します。

創業社長の起業時のご苦勞とその後を受け継いだ社長のご苦勞との違いを単純比較することはできませんが、何も無いところからスタートした事業の価値を後継者の方々が受け継いで、さらに成長発展させていこうという気概の強い企業が進化発展し続けています。

時の流れと共に私達の文明は発展し、文化もそれらに影響されて豊かになってきました。これら文明や文化の変化は市場ニーズの変化となって私達ビジネスマンの個人や組織の変革を促し続けます。

時代を越えてビジネスマンが最もやりがいを感じることは、基本的には大変シンプルで、自分たちの研究や改善・工夫などによる努力が時代の求めるサービスや新しい製品に生かされて、それらを顧客が心から喜んでくれた時に生じる笑顔に出会った時でしょう。この基本的精神が創業の精神として人から人へとストーリーとして伝わっていくとき、企業の未来は間違いなく開けていくと感じています。

<企業復活のヒント>

平成の日本はあらゆる経済指標が世界と比べて劣化した。 ～途中略～

どのようにして創業の熱意を企業組織に根付かせるのだろうか。ヒントはノーベル賞受賞者が発するメッセージにある。歴代の受賞者のメッセージを要約すれば、人の真似（まね）はするな（独自性を追い求めよ）、好奇心を持ち続けよ（何故だろうと問い続けよ）、人との出会いを大切にせよ、簡単にあきらめるな、失敗を恐れるな、といったところに集約される。

個人へのメッセージではあるが大企業病がまん延した企業、長期停滞に陥った企業にも効果的だ。令和の時代はこの言葉を糧として価値創造企業が多数現れることが期待される。

— 出典：「日本経済新聞朝刊 19/5/21 付」大機小機 欄 —